

2020 年 7 月 15 日

会員各位

一般社団法人日本産業・医療ガス協会
会長 今井 康夫 (災害対策部会部会長)
副会長 永田 研二 (災害対策部会副部会長)

会員事業所における高圧ガス容器流出防止対策状況について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当協会に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2018 年に発生した高圧ガス容器流出事故以降、JIMGA で主体的に対策検討を進めていた折、経済産業省高圧ガス保安室からも厳しく要請を受けたことを踏まえ、昨年 11 月 20 日に代表者の皆様に対し、「高圧ガス容器流出防止対策徹底のお願い」と「高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策状況報告」をお送りさせていただき、充填工場・貯蔵所をお持ちの会員様からそれぞれの事業所における対策状況をご報告いただきました。

その後、JIMGA 災害対策部会では、国土交通省の洪水ハザードマップ上で浸水想定深が 1m 以上とみなされる充填工場・貯蔵所を「高リスク事業所」と定義し、高リスク事業所に該当する会員事業所において適切な容器流出防止対策がとられているかの調査確認を進めるとともに、必要に応じて早期の容器流出防止対策実施をお願いいたしました。ご協力いただきました会員各位には大変感謝しております。ありがとうございました。

結論としましては、ご報告のあった充填工場・貯蔵所総数 1,225 か所のうち、高リスク事業所 355 か所のすべてで対策完了(事前準備完了)となりましたので、ここにご報告させていただきます。次頁に調査結果の概要をまとめておりますので、是非ご一読ください。

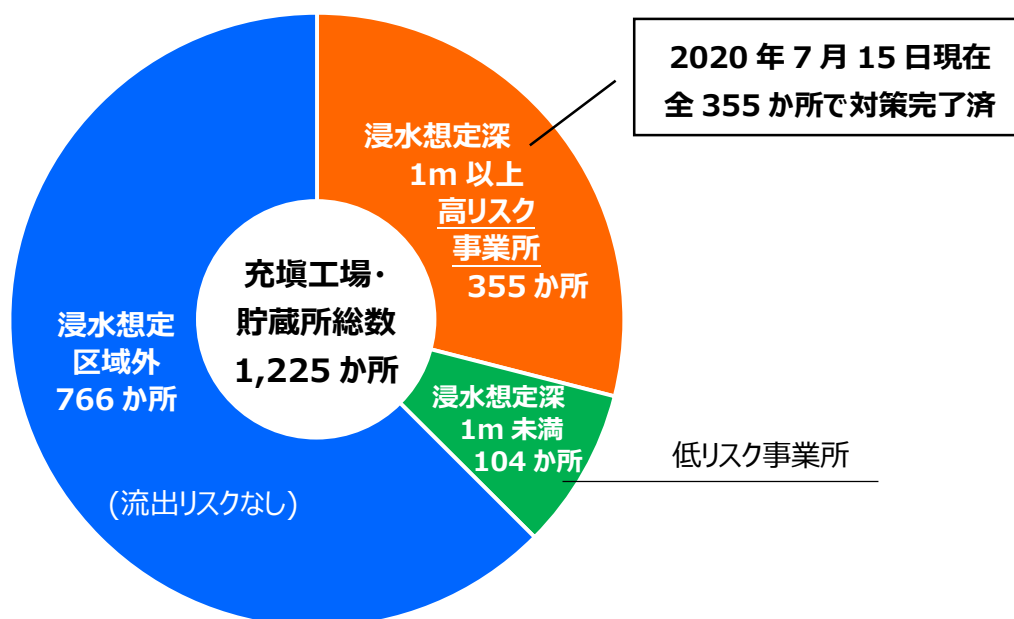
今年もすでに九州を始め、各地で豪雨被害が出ております。高圧ガス容器を取り扱われている会員各位におかれましては、今後も気象情報には十分ご注意の上、豪雨や高潮がくる前には、容器流出防止対策が徹底できていることを再確認いただけますようよろしくお願いいたします。

今後とも、当協会の活動にご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

敬具

<資料 1> 会員事業所における容器流出リスク分類

- ・ 2019 年 11 月 20 日 文書送付先会社数: 799 社
- ・ 「自然災害対策状況」報告のあった充填工場・貯蔵所の総数: 1,225 か所
- ・ 浸水想定深が 1m 以上の高リスク事業所数: 355 か所



<資料 2> 充填工場・貯蔵所における高圧ガス容器流出防止対策

JIMGA 発行「高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策指針」*1 P25~32 に基づき、**台風や集中豪雨等による浸水が予想される場合は**、容器転倒防止対策*2 に加え、容器保管場所には事前に、

- 容器流出防止ネットと建築物/構築物との連結
- 可動扉やシャッターの閉止（容器を建物内部で保管することを含む）
- 容器流出防止用脱着バーの取付と建築物/構築物との連結

などの容器流出防止対策を必ず実施するとともに、**持込空容器も含め、事業所内に存在するすべての容器を特定できるようにしておく。**

*1) 「高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策状況報告」をご提出いただいたすべての事業所に対し、JIMGA-T-S/67/20「高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策指針」を無償で 1 冊ずつお送りしています。

*2) 角リング、ラッシングベルト、バスケット、チェーン 2 段掛け、LGC 転倒防止用留め輪など

(JIMGA 災害対策部会事務局 前田和也・岩戸康人)